

# えびっぴん

立川と語ろう 立川に生きよう

February 2025

Écoutez Bien Vol.41 No.479

2

お風呂屋さんが最高の社交場





# ふぐと創作料理 榎本哲也

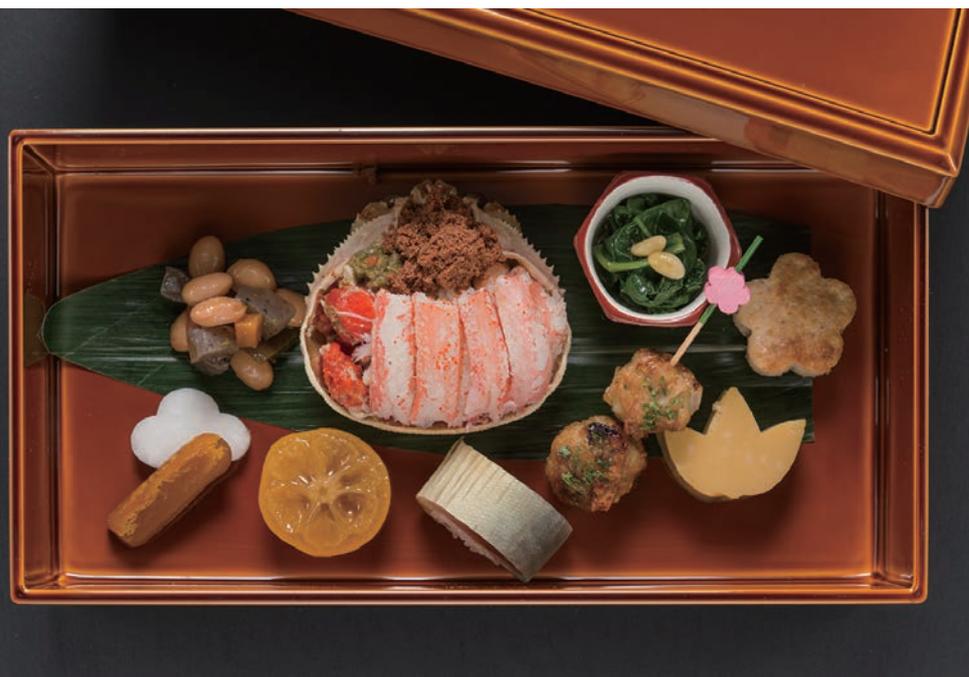


かぶら蒸し

## 立川で北陸の味が楽しめる

えくてびあんは2月号。  
寒さ残る如月に、春を待ちわびるお料理は、  
榎本哲也さんで堪能します。

そろそろ終わりの香箱ガニ。前菜の器に入ってきました。  
1つひとつ丁寧に、味わっていただきたい店主の思いが伝わってきます。  
カニはカニ酢と絡めて、一層美味しい。  
やさしい餡のかかったカブラ蒸し。言わずもがな、ほっとするお味です。  
和牛はステーキとにぎり。口に溢れる旨味に酔いしれます。  
店名の冠にもなるフグは薄造りと唐揚げ。焼き物でさっぱりすると、お寿司の出番。白エビの優しさと、立派なエビのこりこり食感。塩でいただいたりワサビを乗せたり、目で楽しんで舌で味わう。いい時間です。



前菜



牛肉のステーキとお寿司



焼き物



握り寿司



ふぐ

ふぐと創作料理 榎本哲也  
立川市富士見町2-13-19  
富士見町ビルB1F  
TEL 042-519-3448  
定休日 日曜日 月曜日  
営業時間 17:00~22:00

# 流行は銭湯から 佐伯雅斗さん

## 高松町「湯屋敷 梅の湯」だけじゃない!

府中の「湯楽館 桜湯」を建て直し、さらには練馬の物件も再建を手がける。世相を敏感に反映する社交場 銭湯の担い手を養成し、休廃業から銭湯文化を守るヒーロー。

——こんにちは。いつもありがとうございます。

**佐伯** どうも～。

——ん? これ、何ですか?こちらにうかがうと、何かしら面白いものがありますね。

**佐伯** これは、「イヨシコーラ」と言って、うちを含めた何軒かの風呂屋で置き始めたら、バズっちゃって。めっちゃ売れるようになって。ま、ちょっと変わった味がするんだよ。漢方みたいな。

——飲んでみたい!飲んでみなきゃわからない。買っていいかしら?

**佐伯** もちろん。とりあえず差し上げますよ。——いいですよ。買います。そんなに高いんだから。

**佐伯** 体にいい味がするんだよ(笑)。体に良さそうな感じが受けて売れちゃってんだよ。——あ、本当に漢方だ!コーラじゃないよね、

漢方薬ですよ。面白いなあ。おいしい漢方かな。

**佐伯** 追っつかないくらい売れてるよ。写真撮るならちょっと待って。今、冷蔵庫の中埋めるから。毎日夜には空になっちゃうんだよ。——そんなに売れるの?イヨシコーラってどこで作っているの?

**佐伯** 新宿の下落合。小さなクラフトコーラ屋なんだ。うち瓶のコーラも売ってるんだよ。自販機あるでしょ、あそこに。今の若い子って、自販機についての栓抜きが使えないの。

——へえ。世相だね。お風呂屋さんと言ったらコーヒー牛乳かと思ってた。瓶の。

**佐伯** それも売れる!目の前に瓶のコーヒー牛乳の自販機あるでしょ?あれ、夜になる前に無くなるからね。牛乳屋さんが毎日補充してってくれるんだけど、遅く来ると無くて、

お客さん残念がってるよね。瓶もね、どんどんメーカーが止めちゃってね。そう言えば、今回来てくれたのは、めっちゃタイミングよかった。明日(12月16日)から「東京銭湯コレクションカード」っていうのを東京中の銭湯で売り出すんだよ。——東京中って、東京に銭湯何軒あるんですか?

**佐伯** 420軒。めっちゃ減ってしまっただよ。

12月16日から始まった東京銭湯コレクションカードのポスターとカード現物

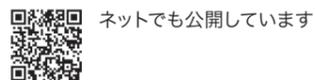


——佐伯さん、減ることに對して一生懸命なさっているんですね。

**佐伯** そうなの、そうなの。事業承継に取り組んできて、「担い手養成講座」っていうのをやってるんだよ。やりたい人はいっぱいいるんだけど、なかなかみんな風呂屋を貸してくれないんだよ。やめちゃうんだよ。やめないで貸してくれて言っているんだけど、やっぱり自分たちがそこに住んでいるから貸さないんだよ。人に貸すと、自分ちのように人が入ってきちゃうから。それが一番大きな理由だよ。

——お風呂屋さんってやってみたい人は大勢いるだろうとは思っていました。

**佐伯** いっぱいいる。毎年お風呂の勉強したい人を30人ぐらい募集するんだけど、それに対して100人の応募があるからね。男女問わず、年齢問わず。風呂屋の経営から、



ネットでも公開しています

掃除から、いろいろなお風呂屋さんを廻って。風呂屋って形態が違うんだよ。木を燃やしているところ、油を燃やしているところ、ガスを燃やしているところ、それもボイラーもあれば、最近では湯沸かし器のところもある。そういう色々な店をバスで廻って見て勉強してもらってるんだ。うちなんか全自動だから、なんにもしないでも、この時間、勝手にお湯が張られている。そういうのも見てね。

——どこで養成講座をやっているんですか?

**佐伯** 僕は今、府中の「桜湯」っていうお湯もやっていて、そこがダメだった風呂屋を建て直したところなんだけど、そこから始めて最後はここ、立川の梅の湯で店番する。でもなかなか始められないですよ。先日やっと1軒丸々借りられて始めた人がいたけれど、あと2つばかり案件があるので誰にやってもらうか考えているところです。養成講座を3年くらいやって、ようやくお風呂屋さんも貸してくれるところが出てきたんだよ。1軒は、また僕が直してる最中、練馬で。それが直し終わったら、養成講座から誰か雇って店長さんになってもらう。

——お風呂屋さんは需要があっていいお仕事だと思うんだけど、どうしてやめちゃうんですか?

**佐伯** 建て替えないとやっていけない商売なんですよ。設備商売だからさ。いまね、土地もそうだけど建て替えようと思ったら、建築費がとにかく高い。建て直そうと思ったら、3億4億は簡単にかかるわけ。わざわざ3億4億かけて風呂屋をやるくらいだったら別にしちゃうとか売り払った方がよっぽど儲かると思うからやめちゃうんだよ。建て直さなくていいのなら、風呂屋の方が楽しみたい。みんな風呂屋を続けたいって思ってる。建て直しの金額は半端じゃないから。設備が使えるのにやめる風呂屋はほとんどいない。

——お風呂屋さんて、建て直してリニューアルしたらお客さんは来るんですか?

**佐伯** 来るよ～。と、思うよ。府中の「桜湯」で言えば、借りたとき月の売り上げは70万なのに、光熱費が50万でその上家賃が50万。

### 佐伯雅斗さん

「立川湯屋敷 梅の湯」三代目。全国公衆浴場業生活衛生同業組合連合会・東京都公衆浴場業生活衛生同業組合・東京都公衆浴場協同組合 副理事長。学校教育にも深く協力する市民であり、お祭りともなればビシッと決めて神輿を担ぐ。でも、今回は本業のお風呂屋さんとして登場いただきました。

佐伯雅斗さん 高松町の湯屋敷梅の湯で



そりゃ、やってくれる人、いないわけよ。さらに壊れているんだから直さなきゃいけないし。でも、今はちゃんと回ってます。お客さんも随分入ってくれるようになったから。——家にお風呂がある時代、どんな人が来るのですか?

**佐伯** 体洗いに来る人はあんまりいないよね。ありとあらゆる人が来る。最近は若い人が増えたよね。女性も増えたし。

——あちこちにあるスパみたいな感覚で来るのかな。

**佐伯** あれって、月に一度のお楽しみみたいな感覚でしょ。そうではなくて、毎日遊びにくる感覚。棲み分けはできている、1日いるわけじゃなくて、1時間2時間、ちょっとリラックスしにくるとか友だち同士遊びにくるとか、お酒飲む前に来るとか集まりの後来るとか、いろいろ。昔みたいに体洗うのを目的に来る人は減ったよね。洗面器持ってくるっていう人もいないし、家からタオルセット持ってくるっていう人もいないし。ほとんどの人が手ぶらで来てるからタオルは貸す。昨日なんかも、お客さん400人くらい来たんだけど、大半はタオル持っていなかったから。

——佐伯さんが他の報道で取材に応じていたのを見て、事業承継が大変な業種なんだというイメージだったけれど、お話を聞いてみるとそうでもない気がしてきました。

**佐伯** 実際に勇気を持って建て替えてやってみたら、今までの売上げでは返せないような借金をしてもやっていけると思っていますよ。我々は組合で銀行を持っていますが、返せなかった例は未だ1件もないです。よっぽどの金額を借りても今までは返せている。でも、それは絶対とは言えない。今まではそうだったけれど絶対とは言えないから無理強いはできない。

——そうかあ。おいしい話に聞こえますが勇気いりますよね。それにしても、いつ来ても本当に面白いものがあるなあ、梅の湯って。イヨシコーラ、気に入っちゃった。

**佐伯** ドリンクってね、風呂屋から流行るんですよ。ポカリスエットも風呂屋からだったからね。大塚製薬とは長い付き合いでね、40年くらい前かな、当時ドリンクが100円だった時代に200円でポカリスエットを売って言って、200円の缶ジュースなんて売れないよって、しかも開けて飲んでみたら、他のドリンクが甘いのにこんな味のしないもの、ってみんな言っていたのに、それが結構当たっちゃって。売れてきたから単価も下がって他のドリンクと同じになって、さらに売れてってね。今も同じようなことになっていて、風呂屋から売れてってね。東京都にある420の風呂屋でみんな同じことやっているからね、売れば、そりゃバズるよね(笑)。



話題になったイヨシコーラ (290円) がこれ



# 多摩地域の『司令塔』となる

## 東京消防庁 警防本部 多摩指揮隊

例えば首都直下型地震、例えば集中豪雨による大規模土砂災害、例えば河川の氾濫。森林火災や山岳事故など、多摩地域特有の災害を想定して、迅速な救助活動のために東京消防庁は立川に多摩全域を管轄する「警防本部 多摩指揮隊」を2024年秋に設置した。

従来は千代田区大手町にのみあった本部指揮隊の機能を、多摩指揮隊として立川に新設、多摩地域全域の消防活動を支援する役割を担う。多摩地域特有の災害（山岳救助、林野火災、土砂災害など）への対応力強化を図る。

指揮隊は3人体制の3部構成、計9人で24時間勤務を行う。現場での直接活動ではなく、主に作戦立案や指揮支援がその役割。

多摩指揮隊を率いるのは、東京消防庁 警防部 安全対策担当課長 伊藤彩子消防司令長。火災の研究ではその名を誇る東京理科大学で建物火災を学び、大学院でそれを深めるも、現場を知ることこそが大事と考えるようになり東京消防庁へ。警防部畑をあらにこちらに異動し所轄消防署を経験し、消防関係者に対し幹部としての高度な教育訓練を行う国の機関、総務省消防庁消防大学の教授を経て、再び警防部へ。このたびの抜擢となった。三部の指揮隊長同様、大隊長の経験がある。

多摩指揮隊が使う車は、今まで立川署には配置されていなかった大型の指揮車両。中には小さいが調理できるコーナーもあり、長期間にわたる消火救出活動に備えている。屋根の上にはお立ち台のように高いところから俯瞰できる部分があり、消火活動の指揮の際に利用する。直接指揮するのではなく、所轄の指揮隊の支援をするのがその役割。本部庁舎が被災した際には、代替拠点としてその役割を担う。

「広域な多摩地域の災害が増えてきている現状を踏まえ、大規模災害の時には大手町からのインフラが麻痺することも考慮して、東京消防庁も対策を考えてきました。あらゆる経験を経て来た隊員と共に、地域のために業務にあたっていきます」と伊藤司令長。

市民の命、財産を守るため、24時間体制で多摩地域を見守る。



警防本部 多摩指揮隊の皆さん（三部の方々、他の部隊の方はこの日は非番だったりお休み）  
伊藤彩子消防司令長（手前） 左から警防本部 多摩指揮隊 泉さん、佐子さん、壺岐さん、毎日勤務 本田さん、峯岸さん



多摩指揮隊が所属する多摩地域 第八方面と第九方面



えくてびあんはリストのお店にあります。
今日は・砂川町・柏町・幸町
若葉町・栄町・高松町・曙町のお店です。

- 砂川町
多摩信用金庫 砂川支店
珈琲豆焙煎工房 まめ吉
BREAD & Sweets マニシェール

- 柏町
山梨中央銀行 立川支店
株式会社 セレモア
パワー軒
H.works
ペーカリー リオンドール

- 幸町
いなげや 立川幸町店
多摩信用金庫 幸町支店
中国料理 SANFUJI

- 若葉町
スーパー ヤオコー
ありた整骨院
カフェ タイニーガーデン

- 栄町
多摩信用金庫 栄町支店
いなげや 立川栄町店
チーズ王国 本社

- 高松町
立飛麦酒醸造所
金田スイミングスクール立川立飛
米穀・食料品 横町屋

jorakugajo
真如苑提供番組「常楽我浄」
スカパー！：529ch
J:COM 多摩：11ch・111ch

街の話題

掲載しきれなかった写真や動画、
詳しい内容はQRコードからどうぞ



立川南口防災フェア

快晴の12月1日、「見る・知る・感じる・体験する」をテーマに開催された第10回立川南口防災フェア。柴崎町3丁目交差点の駐輪場とモノレール下を会場に、消防署、警察署、自衛隊が車両の展示や豚汁を配ったりして楽しくておいしいイベントとなりました。えくてびあんでは初めて「シートベルト衝突体験」をやってみました。見るとやるとでは大違い。時速5キロ程度だったそうですが、衝突の衝撃は大きく、膨らんだエアバックは石のように感じました。シートベルトって大事なあと実感したコーナー。体験するって大事です。



モノレール下の第一会場



大忙しの市長、間に合って良かった「テープカット」

賑わったあすなろフェスタ

12月1日、北口のサンサンロードでは、刑務所作業製品の展示即売と立川拘置所矯正展を同時開催した「第15回たちかわあすなろフェスタ」が行われました。お目当ての品物ブース前には長い列ができています。お値打ち価格のものもあり、落ち葉舞う冬の日に、楽しいお買い物が出来たようでした。



拘置所の職員さんによるバンド演奏



このブース前も並んでいました。気になる方、来年行ってみては？

市役所でチャリティ・コンサート

12月9日、市役所のお仕事が終わった夕方、市役所一階ロビーで能登半島復興支援のための素敵なチャリティ・コンサートが開催されました。入場無料、全席自由。市役所のロビーってこんなに音響よかったかしらねと思うほど。今回演奏してくださったのは8名で構成されたEnsemble Bravo (アンサンブル ブラヴォ)。発起人の市川和彦さんは立川市在住。国立音楽大学在学中に新日本フィルハーモニー管弦楽団に入団、現在副主席トランペット奏者として活躍中。市役所でこんな演奏会、時々やってくれませんかといいいですよ。



会場の様子



演奏者の向かって右端が市川和彦さん。軽妙なトークもすばらしい。

和やかに「懇親会」

辰年も押し詰まった12月25日、ホテルエミシアで真如苑主催の「立川市諸団体 懇親会」が開催されました。えくてびあんも参加させていただきました。240人以上の方々に参加されていましたが、お料理も美味しく、会は和やかに進んで、お客様からは「自治会なども含めた様々なジャンルから、これだけの代表者が集まるなんて、真如苑でなければできないな」というお声も上がっていました。主催者を代表して真如苑の西川教務長が挨拶された中に、真如苑には救援ボランティアサーブ (SeRV) というボランティア組織があるが、各地の災害救援に向かうにあたっては社会福祉協議会の方々の協力があって活動ができているというお話や、令和7年の秋ごろには南口の総本部に新第二精舎が落慶するというお話などもありました。



懇親会の様子



2024年最後の取材でした

12月28日、栄町銀座を歩いて行く公園でお餅つきをしていました。こうした風景が無くなりつつある昨今、子どもの姿が少ないのが残念でしたが、餅米が蒸される湯気やお餅をつく音など、残したい文化の一つですよ。あんこ餅もきなこ餅も美味しかったです。



お餅つきの様子

2025年最初の取材でした

2025年1月2日と3日に行われた新春ファミリーイベント「たちかわバウンスガーデン」。立川ステージガーデンで開催されました。主催したのは一般社団法人立飛教育文化振興会。立川ステージガーデンのことで。ステージガーデンのオリジナルイベントはこのバウンスガーデンが初めてで、多くのお子さんが集まって楽しめたこと、大成功でしたね。



ステージガーデン内の様子



外の様子、他にもたくさんの遊具がありました

2025年元旦の富士山

今年の初日の出は、富士山です。元旦の陽に照らされる富士山ですが、雪が本当に少ない。例年なら、ふっくら厚みのある雪をまとった真っ白な富士山なのです。新年1月6日にまとまった雨が降りました。七草粥を頂きながら眺めた富士山は、真綿の帽子をかぶったようでした。(その様子はえくてびあんnoteにアップしてあります)



2025年1月1日6時53分 撮影

表紙

神社の千木に雪降りしきる (諏訪神社)

2018年1月22日に撮った写真です。2014年2月以来、4年ぶりに東京で20cmを超える積雪がありました。降っている間は、まさに「深々」と降る雪に町は静まり返ります。交通はマヒするし、動きが停まってしまう人の営み。この年以來、こんなに降る雪を立川では見ていませんが、雪の多い地域では昨年未から大変な様子。住民の皆さんのご苦勞をお察し申し上げます。ともあれ、えくてびあんの表紙に雪の様子を掲載できるのは年に一度だけ、2月号のみです。降りしきる雪の動きを感じていただけますでしょうか。

かたこと

◆皆さま、穏やかに新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。「立川を食べよう！」のコーナーでは、少しでも被災地に思いをと、富山や石川の食材をふんだんに使う和食「榎本哲也」さんを取り上げました。被災地の1日も早い復旧、復興を祈ります◆三の酉であった昨年、秋ごろから火事が目立って増えていたように感じます。乾燥していた関東ですから、一度火が出れば燃える、燃える。森林火災、林野火災を想定して多摩地域に東京消防庁が多摩指揮隊を配備したのは当然かもしれません。春の火災予防運動が終わるまでは、命を守り財産を守るために、それぞれが特に気を付けていきましょう◆紙面に掲載しきれなかった写真や、紙面には載せられない動画など、えくてびあんnoteにアップしています。宣伝していないので、気づいた方しかご覧になっていないようですが、実はここに色々仕込んであります。姉妹サイトの「多摩でばこネット」とは棲み分けされていますから、えくてびあんnoteもどうぞ鼠耳に◆裏表紙の「あの頃の立川」が面白いとお声を頂いています。こういうページこそがえくてびあんの真骨頂。これからも引き続き、皆さんの知らない立川を掘り起こしていきます。どうぞ本年もよろしく願い申し上げます。
えくてびあんスタッフ一同

えくてびあん ©

2月号 第41巻 通巻479号

令和7年2月1日発行
発行 有限会社えくてびあん
〒190-0023
東京都立川市柴崎町2-1-10 高島ビル4F
TEL 042-528-0082 FAX 042-528-0065
E-mail message@tamatebakonet.jp
URL https://www.tamatebakonet.jp
発行人 黒須 環
企画・編集 えくてびあん編集スタッフ
写真 五來孝平・Betty
デザイン 池田隆男 (WATER DESIGN ASSOCIATES)
印刷 ダイオームウラ株式会社・DECK C.C.

無断転載を禁じます。

## 子安農園立川養豚場 当時の絵はがきから

子安農園立川養豚場の俯瞰図  
敷地を囲む満開の桜が美しい



〈日の開満花櫻〉 養全場豚立川をた見りよ興行旅

蕃殖用の牝豚用豚舎

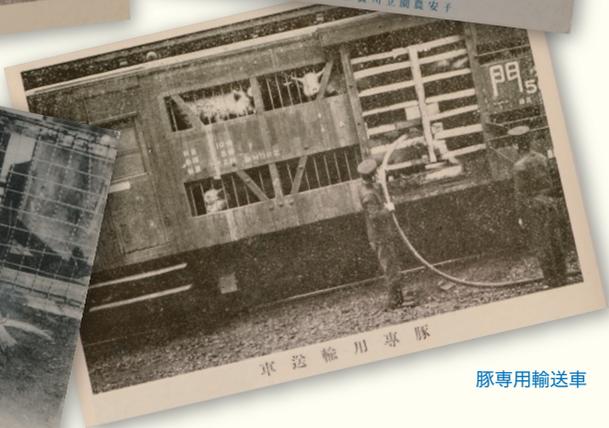


多北府京東) 部内舎豚北時蕃殖養用立園農安子



〈村川立園農多北府京東〉 子母一サシ一ヨク豚養用立園農安子

ヨークシャー種の母子



豚専用輸送車

えくてびあんで子安農園立川養豚場を取り上げるのは何度目か。でも、人はすぐ忘れてしまうのだ、立川が豚の産地だったことを。三菱の創始者一族である岩崎輝弥氏が経営していた牧場「子安農園」。分園が大正6年頃立川にでき、「子安農園立川養豚場」と称していたが、昭和16年神奈川県大和市に移転した。60万平米もある大型農場は立川飛行場や陸軍の施設に隣接していて、正門近くの上古新田駅には用があれば青梅線が停まり、引込線で飼料などは貨車から降ろされ、農園内のトロッコで運ばれていたという。戦争直前ののどかな風景が思われる。

(えくてびあんの写真から)

他の写真はこちらで

